

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270400373		
法人名	NPO法人 高齢者をささえる会		
事業所名	グループホーム伊豆の家		
所在地	静岡県伊東市吉田501番地1		
自己評価作成日	令和5年3月22日	評価結果市町村受理日	令和5年6月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2270400373-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2270400373-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5年 4月 6日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅地に所在し、入居しても、今まで暮らしていた場所と変わらない環境で生活することが可能です。お米は地元農家と契約している為精米したての美味しいお米が大変好評です。コロナ感染リスク低下とともに、外出支援に力を入れて行けるよう計画中です。また設備面においても2ユニットの新築としては静岡の東部地区では1番建物の広さのようですが、広さだけではなく個別のお部屋に電話を引けたり、今までと変わらない暮らしをサポートしております。また尊厳のあるケア、心のケアを静岡東部で一番を目指して運営しております。コロナによる制限が緩和されると共に、運動会やイベントの招待、近隣の幼稚園児や小学生、中学生との交流再開できるよう努めます。近所の方が「自分の将来、介護が必要となったら伊豆の家に入りたい」と心から、そう思ってくださいの運営方針に当ホームは力を入れております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理事長が町内会長を務めていたなど、地域との関わりを大切に事業所運営を続けている。コロナ禍により、ボランティアの受入れや地域行事への参加を制限してきたが、コロナ後を見据えて、幼稚園・保育園や町内会との連絡を続け、5月以降の緩和にあわせて交流方法を検討している。コロナ禍の中でも、写真付きのお便りで利用者の様子を伝えるとともに、玄関先面会やオンライン面会など、家族の希望に合わせた対応を心掛けている。キャリアバスを導入した職員面談・人事考課や全体会議・社員会議にて意見交換を図るとともに、職員からの意見・提案を聴き取る仕組みを整え、職場環境整備に注力している。地元農家提供のお米や野菜を利用して、季節感のある手作りの食事を提供している。管理者・職員は、日々の利用者の状態を観察して介護計画作成につなげ、自宅と変わらない暮らし方の継続を目指す支援を心掛けている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	正面玄関に理念の文章を掲げ、いつでもどなたにも確認が取れ、理念を勤務の中で意識づけしています。管理者は特に意識をし地域に密着した生活が出来る様に努めます。	運営理念を掲示し、職員は常に意識した支援を心掛けている。管理者・職員は、日々の「申し送り」「介護日誌」「夜勤日誌」により情報共有を図り、全体会議や都度職員と話し合いながら、理念に基づく支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの蔓延により、感染症対策の一環として現在は一時的に交流を中止しているが、地域の一員として近隣にお住まいの方に親しみを感じて頂けるよう意識しています。	コロナ禍により、一時的にボランティアの受入れや地域行事への参加を制限してきたが、コロナ後を見据えて、幼稚園・保育園や町内会との連絡を続けてきた。5月以降の緩和にあわせて、交流方法の検討準備を進めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの蔓延により、感染症対策の一環として現在は訪問等は一時的にご遠慮して頂いているが、電話等の相談には随時対応しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの蔓延により運営推進会議を開くことができていませんが、手紙のやり取りで取り組み状況等の報告をおこなう意見等を頂いています。	コロナ禍の中、運営推進会議は書面にて開催している。会議資料と共に「ご意見・ご要望書」を送り、市・地域包括支援センター職員・訪問看護師からの意見を聴き取り、議事録にて報告している。職員は回覧にて確認し、情報を共有している。	事故を未然に防ぐために、「ヒヤリ・ハット報告」は、事業所運営にとって重要な内容です。運営推進会議議事項目に加え、「ヒヤリ・ハット」事例を報告・検証し、事故防止の仕組みを整えることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃よりサービスの取り組み、入居者様の相談等を、TELや訪問等において連携に努めています。また非常時の情報や停電などの情報共有もその都度、市担当部署にメールを登録しており、必要な情報の共有ができるようしています。	市高齢福祉課担当者とは、電話・メール等にて常に連絡が取れる協力関係である。運営推進会議の運用や新型コロナ感染防止対策・交付金等について相談し、事業所運営の助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新型コロナウイルスの蔓延により研修を開くことができていませんでしたが、身体拘束に関する書面をファイルし、それを全職員が回覧する形をとっています。	身体拘束廃止について、指針・マニュアルを整備して、3か月に1回委員会開催と年2回職員研修を行い、身体拘束を行わないケアの実践に努めている。職員は、研修資料を回覧して理解を深め、都度確認しながら、身体拘束に関する適正な対応を心掛けている。	

静岡県(グループホーム伊豆の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会、社員会議等において高齢者虐待防止について話し合いの場を持ち、検討しています。またホーム内において、それに関する事項の回覧を回し職員1人ひとりが意識を高めるようしております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している方がいる為、司法書士・弁護士との連携は問題なく行っている。 また生活保護受給者の方も入居されており、保佐人との話し合いの場もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約、重要事項説明書等を利用者様、ご家族様の方々に十分な説明をし、質問等にも納得のいくように説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の面会時の折に、随時、機会を得て意見や要望を把握し、サービスの提供に反映するよう努めています。また満足度調査や利用者様及び利用者ご家族様意見箱を設置し運営に要望を反映している。	毎月、写真付きのお便りを送り、利用者の様子を伝えるとともに、コロナ禍の中でも、玄関先でのガラス越し面会やオンライン面会など、家族の希望に沿った対応を心掛けている。家族の満足度調査実施を準備し、家族の要望の把握に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会や社員会議時に、スタッフの意見を聞き、意見や提案を尊重するよう努めています。また意見や提案は「提案改善事項」として検討しております。	年2回の職員面談・人事考課や全体会議・社員会議にて意見交換を図るとともに、「提案改善事項」により職員からの意見等を聴き取る仕組みがある。提示された意見は、都度理事長・管理者が検討し、全体・社員会議にて情報共有を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境要件及びキャリアパス制度の導入により、やりがいの持てる職場形成に努めている。 またパートタイム有期雇用労働法の施行に伴い、職員が待遇に納得して働き続けられるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルスの蔓延により、感染症対策の一環として現在は外部研修を一時的に中止しているが、内部研修としてケアカンファレンスや管理者によるスキルアップの為のOJTや技術指導を随時行っている。		

静岡県(グループホーム伊豆の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡会や小規模部会などの部会を通じて、他事業者との情報交換に努めています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に本人に十分にヒアリングを行い、ご本人が不安な場合は何度でも見学が可能です。ご本人が安心された時期をみはからって入所を勧めている。また要望等も可能な限り柔軟な対応で受けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前は原則、ご家族様宅に伺い家族が抱えている問題や不安がないよう可能な限り勤めている。またご家族がこられなくても入所後のご本人の写真を送ったり電話で連絡を入れている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様を中心に、今最も望まれるサービスを選択して頂けるよう、ご本人と家族様の思いをじっくり伺い、安心、満足ある支援を心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者の関係づくりは1つの家族として信頼しあえる間柄であっても尊敬と尊厳を守りつつ築くことに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の日常生活の中でささいな出来事や、事柄に対しても、共通の関心を持ち情報の共有によって連携を持ちながら支援していくことに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス蔓延につき、面会制限を設けた為、今までのように馴染の方が来れやすい環境とは言えなくなっています。かかりつけ医の通院対応はご利用者様・ご家族様のご希望される場合、要望に応えるように努めています。	コロナ禍であっても、携帯電話利用やかかりつけ医の受診など、利用者・家族の希望を聴き取り、今までの生活の継続を支援している。玄関先ドア越し面会やオンライン面会により、家族との関係継続を図るとともに、訪問美容や利用者・職員との関係作りなど、事業所での暮らしにも配慮している。	

静岡県(グループホーム伊豆の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の特徴に配慮しながら、日常的に職員も利用者同士の間に入り、話題の架け橋に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後、ご家族様からのご連絡や訪問による相談がある場合は継続的に支援できるよう努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の悩みや話を傾聴し、また、生活の中で利用者様の想いに配慮し、生活し易いよう支援に努めています。 現在は新型コロナウイルスの蔓延に伴い、一時的に中止しているが個人的に出張マッサージ等を受けることもできます。	管理者・ケアマネジャーは、入居時に利用者 と家族の意向を聴き取り、フェイスシートに記載して情報を共有している。職員は、日々利用者の様子を注意深く観察し、利用者と家族の意向を確認しながら、想いに沿った暮らし方を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前より様々な情報を得て、その方にあった暮らしを尊重し、居室や生活様式にあまり大きな変化がないよう配慮することに努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人、お一人にとって一番居心地のよい生活パターンを把握し、できる限り希望にそえるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々のアセスメントをすることによって正確にニーズを把握し、ご家族も含め、現在の生活を快適に過ごせるよう介護計画をたてて実行しています。	職員は、常に利用者の「介護計画の長期・短期目標」を確認しながら介護経過を記録し、カンファレンスやモニタリングに反映させている。「介護日誌」「夜勤日誌」「日課計画表」などにより、利用者の状態を細かく把握する仕組みを整え、介護計画作成に結び付けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を残すことで日々の気づきを共有し計画にいかしている。カンファレンスを通しケアプランの見直し長期、短期の目標をたてその介護内容を実施し、現場の実践が証明できる記録の作成に努めています。		

静岡県(グループホーム伊豆の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人や御家族の状況に応じて柔軟な対応をとっています。例えば、主治医以外の通院の付き添いや薬の調達を請け負ったり、個人的な買い物をサポートしたりと、独自のサービスを行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの蔓延により、感染症対策の一環として現在は一時的に交流を中止しているが、今後は以前同様地域のボランティアの方々による各種催し物を定期的に企画したい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院と連携を結び月2回の往診があります。また特変時には個別の往診も来て頂けます。その際、日頃から病状を把握し、ご家族との情報も交換しあいながら連携をもった関わりをしています。	協力医の月2回往診と看護師が週1回訪問し、利用者の健康を管理している。看護師との24時間オンコール対応により、緊急時の相談・受診体制が整えられている。他科受診は、家族と連携しながら対応し、受診時の情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と契約し週一回の健康観察があります。またバルーン対応や褥瘡処置など個別の対応が必要な場合、毎日訪問が可能です。24時間看護職との連絡がとれており、適切な相談、受診を受けられる体制が整っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院に関しては、往診主治医がほぼ判断し、入院後もホーム関係者の見舞いや洗濯物等の支援や病院のソーシャルワーカーとも関わりをもち、退院調整含め良好な関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	できる限り終末期や重度化に向けた支援をしていきます。早い段階からご家族、ご本人の希望を把握し、グループホームでは病院と違い積極的な治療を受けるには不向きであることなど十分に説明した上で方針を共有し支援に努めています。	重度化・終末期の事業所の対応について、入居時に利用者・家族に説明し、同意を得ている。重度化した際には、再度終末期に向けた方針を確認し、協力医や訪問看護師と連携しながら、家族の意向に沿った支援を心掛けている。職員は全体会議や研修にて、対応を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に、全体会、研修会を通して、職員が応急手当や初期対応の実践力向上に励んでいます。緊急対応マニュアルにそって緊急度の程度を判断し医療職に繋げるよう夜勤者と社員を中心に行っています。		

静岡県(グループホーム伊豆の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に、避難訓練を行い、入居者様への意識付けや昼夜の勤務者が様々な場面での避難の対応が出来る様に繰り返し行っています。地域の方々に関しては、集まりがあった時に協力体制をお願いし承諾を得ている。	年2回、想定を変えて避難訓練を行っている。備蓄品は、水・食料品のほか、停電対策として発電機2台を備えている。法人理事長は地域住民との関わりが深く、災害発生時には地域全体で協力できる関係を築いている。	令和5年度末までに「災害時事業継続計画(BCP)」策定が必要なことから、事業所の計画策定をお願いします。災害訓練実施記録として、写真を掲載するなど記録方法の検討を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時や全体会等において言葉かけや対応の仕方の社員教育を行っています。また、利用者様を尊重し、尊厳する様努めています。	職員の入社時研修と定期的な全体会議にて、接遇研修を実施している。職員の対応に課題が散見された場合は、都度注意しながら、プライバシーに配慮した対応を心掛けている。利用者の写真利用については、入居時に利用者・家族に説明し、同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話より、利用者様の思いや希望を把握し、職員同士が情報を共有し、自己決定できるよう努めています。また、ケアプラン等にも生かし、ご家族にも情報を伝えています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	良かれと思いつい行い介助も、ご本人が望まないこともあり、その方の望まれることを見極めてサービスを提供しています。緊急性や命に関わることでない限り規則にはめず、出来るだけ利用者様の気持ちを優先し支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容等に配慮し、服装も利用者様の希望の服を選んでいただき、イベント時にはお化粧品などを楽しんでいただいています。外出の難しい利用者様にはカタログなどのお買いものを楽しんで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みの食べ物をなるべく提供し、見た目も楽しめるように工夫していくよう努めます。また刺身の日、土用の丑の日など、季節感とイベント的な食事を毎月提供しています。	食材は地元農家や業務スーパーで調達し、職員が手作りで提供している。職員は、利用者との会話や食事の様子などから好みを把握し、献立作りに反映している。地域住民からの差し入れを利用したり、季節ごとの食事イベントを行い、季節感のある食事を楽しむ機会を大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は毎食、確認できるよう記録物があり、その様子によって追加摂取したり、補足したりしています。個々の状況により、食材や食形態を検討し、安全で適切な状態での摂取を心掛けています。		

静岡県(グループホーム伊豆の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合った口腔ケアを実施しています。ガーゼ等で磨く場合は清潔保持にも配慮しています。口腔ケアが十分に行えない場合は、口腔ケア用の用品などを使って個別に対応しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をもとに個々の排泄パターンを把握し、できる限り不快感を感じないよう排泄支援しています。また、オムツで入所された利用者様であっても尿意等がある場合は再びトイレにて排泄できるよう支援をしています。	「排泄表」に食事・水分量、排泄状況を記録し、個々の排泄パターンを把握して、夜間ポータブルトイレ利用者も、日中はトイレ利用を促す声掛け・トイレ誘導を心掛けている。特に入居時には、利用者の状態を注意深く観察し、利用者に合わせて対応を検討して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃より便秘予防の為に食材、水分、運動等に配慮し、場合によっては主治医に相談もしています。個別に補助食品として牛乳、ヨーグルト等を追加して摂取しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の体調に合わせて、希望時に入浴できるように努めています。一人ずつお湯を入れ直している為、清潔な上、入浴剤の有無や好きな温度でのんびり入って頂けます。転倒や転落のない様リスクの高い方は二人で介助しています。	週2回、午後入浴を基本として、利用者の希望や体調に合わせて実施している。二人介助や車椅子・シャワーチェアの利用、入浴剤利用や温度管理など、利用者の状態・好みに合わせた支援を行い、ゆったり入浴を楽しむ工夫を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様1人1人の体調を考慮し、動と静のバランスを随時心掛けています。ゆっくりお休み頂けるよう温度管理に留意し、また日中でも体を休めるようフロアーにソファなども用意しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在、服薬中の薬の目的、副作用を明示したものを個々のファイルをし各階でスタッフがいつでも見れることができるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の体調や生活パターンに合わせて、食事の支度や片付け、洗濯物量みなど手伝って頂きお礼の言葉を毎回きちんと伝えていきます。また、歩行訓練等にも努めています。カラオケなども通信でユニットごとに配置しておりTV体操を中心に体を動かして頂ける様働きかけています。		

静岡県(グループホーム伊豆の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの蔓延につき、不要不急の外出以外は基本的に外出支援は出来ていません。地域のボランティアさんにも施設への出入りはご遠慮して頂いている状況です。。	コロナ禍により外出イベントは中止しているが、散歩や外気浴の機会を大切にしている。利用者の体調に合わせて、事業所周りのコース1周10分程度の散歩を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の理解度の程度により、個々の手持ちのお金を保持されており、満足感や達成感を体験しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者は、理解の程度により居室に電話を引いていた事もあります。手紙もご家族様やご利用者様の要望により手紙のやり取りも支援して参ります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間ではどなたにとっても色、臭い光等が不快なく過ごせるよう空間作りに努めています。また共有空間はエアコン以外に、床暖房や、天井に除菌機能の空気清浄機をフロアごと3つつ設置し快適に過ごせるよう配慮している。	季節に合わせた置物や生花を飾り、季節を感じることができる環境作りを心掛けている。日頃から、換気・除菌のための強制換気システムと空気清浄機を設置して感染防止対策を図り、清掃・消毒に注力して清潔で快適な空間作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの中に応接セットのソファを用意し、ゆったりと腰かけて他入居者の方々や職員と会話したりくつろげるよう工夫しています。また家具も家庭にいる雰囲気大切にしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具はすべて個人が使用していたものを持参され時計やカレンダー布団、洋服など人それぞれ持ち込まれています。また電話や仏壇を持ち込まれている利用者もいます。	エアコン、ベッド、大きなクローゼットを備えた広い居室は、電話を引いて利用することができる。使い慣れた家具等を持ちこみ、利用者好みの部屋作りを支援している。体調の変化に合わせて転倒防止に配慮した模様替えや衣替えは、利用者の希望を聴きながら職員が手伝っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は、全てバリアフリーとなっており、共有スペースは空間も広く床暖房も設置されており、危険や事故のないよう配慮されています。また広々としている為、1人ひとりの意向にそったしたいことがゆっくり行える環境です。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270400373		
法人名	NPO法人 高齢者をささえる会		
事業所名	グループホーム伊豆の家		
所在地	静岡県伊東市吉田501番地1		
自己評価作成日	令和5年3月22日	評価結果市町村受理日	令和5年6月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=2270400373-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2270400373-00&ServiceCd=320&Type=search)

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5年 4月 6日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅地に所在し、入居しても、今まで暮らしていた場所と変わらない環境で生活することが可能です。お米は地元農家と契約している為精米したての美味しいお米が大変好評です。コロナ感染リスク低下とともに、外出支援に力を入れて行けるよう計画中です。また設備面においても2ユニットの新築としては静岡の東部地区では1番建物の広さのようですが、広さだけではなく個別のお部屋に電話を引けたり、今までと変わらない暮らしをサポートしております。また尊厳のあるケア、心のケアを静岡東部で一番を目指して運営しております。コロナによる制限が緩和されると共に、運動会やイベントの招待、近隣の幼稚園児や小学生、中学生との交流再開できるよう努めます。近所の方が「自分の将来、介護が必要となったら伊豆の家に入りたい」と心から、そう思ったださる運営方針に当ホームは力を入れております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	正面玄関に理念の文章を掲げ、いつでもどなたにも確認が取れ、理念を勤務の中で意識づけしています。管理者は特に意識をし地域に密着した生活ができる様に努めます。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの蔓延により、感染症対策の一環として現在は一時的に交流を中止しているが、地域の一員として近隣にお住まいの方に親しみを感じて頂けるよう意識しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの蔓延により、感染症対策の一環として現在は訪問等は一時的にご遠慮して頂いているが、電話等の相談には随時対応しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの蔓延により運営推進会議を開くことができていませんが、手紙のやり取りで取り組み状況等の報告をおこない意見等を頂いています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃よりサービスの取り組み、入居者様の相談等を、TELや訪問等において連携に努めています。また非常時の情報や停電などの情報共有もその都度、市担当部署にメールを登録しており、必要な情報の共有ができるようしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新型コロナウイルスの蔓延により研修を開くことができていませんでしたが、身体拘束に関する書面をファイルし、それを全職員が回覧する形をとっています。		

静岡県(グループホーム伊豆の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会、社員会議等において高齢者虐待防止について話し合いの場を持ち、検討しています。またホーム内において、それに関する事項の回覧を回し職員1人ひとりが意識を高めるようしております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している方がいる為、司法書士・弁護士との連携は問題なく行っている。 また生活保護受給者の方も入居されており、保佐人との話し合いの場もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約、重要事項説明書等を利用者様、ご家族様の方々に十分な説明をし、質問等にも納得のいくように説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の面会時の折に、随時、機会を得て意見や要望を把握し、サービスの提供に反映するよう努めています。また満足度調査や利用者様及び利用者ご家族様意見箱を設置し運営に要望を反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会や社員会議時に、スタッフの意見を聞き、意見や提案を尊重するよう努めています。また意見や提案は「提案改善事項」として検討しております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	職場環境要件及びキャリアパス制度の導入により、やりがいの持てる職場形成に努めている。 またパートタイム有期雇用労働法の施行に伴い、職員が待遇に納得して働き続けられるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルスの蔓延により、感染症対策の一環として現在は外部研修を一時的に中止しているが、内部研修としてケアカンファレンスや管理者によるスキルアップの為のOJTや技術指導を随時行っている。		

静岡県(グループホーム伊豆の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡会や小規模部会などの部会を通じて、他事業者との情報交換に努めています。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に本人に十分にヒアリングを行い、ご本人が不安な場合は何度でも見学が可能です。ご本人が安心された時期をみはからって入所を勧めている。また要望等も可能な限り柔軟な対応で受けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前は原則、ご家族様宅に伺い家族が抱えている問題や不安がないよう可能な限り勤めている。またご家族がこられなくても入所後のご本人の写真を送ったり電話で連絡を入れている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様を中心に、今最も望まれるサービスを選択して頂けるよう、ご本人と家族様の思いをじっくり伺い、安心、満足ある支援を心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者の関係づくりは1つの家族として信頼しあえる間柄であっても尊敬と尊厳を守りつつ築くことに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の日常生活の中でささいな出来事や、事柄に対しても、共通の関心を持ち情報の共有によって連携を持ちながら支援していくことに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス蔓延につき、面会制限を設けた為、今までのように馴染の方が来れやすい環境とは言えなくなっています。かかりつけ医の通院対応はご利用者様・ご家族様をご希望される場合、要望に応えるように努めています。		

静岡県(グループホーム伊豆の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の特徴に配慮しながら、日常的に職員も利用者同士の間に入り、話題の架け橋に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後、ご家族様からのご連絡や訪問による相談がある場合は継続的に支援できるよう努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の悩みや話を傾聴し、また、生活の中で利用者様の想いに配慮し、生活し易いよう支援に努めています。 現在は新型コロナウイルスの蔓延に伴い、一時的に中止しているが個人的に出張マッサージ等を受けることもできます。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前より様々な情報を得て、その方にあった暮らしを尊重し、居室や生活様式にあまり大きな変化がないよう配慮することに努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人、お一人にとって一番居心地のよい生活パターンを把握し、できる限り希望にそえるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々のアセスメントをすることによって正確にニーズを把握し、ご家族も含め、現在の生活を快適に過ごせるよう介護計画をたてて実行しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を残すことで日々の気づきを共有し計画にいかしている。カンファレンスを通しケアプランの見直し長期、短期の目標をたてその介護内容を実施し、現場の実践が証明できる記録の作成に努めています。		

静岡県(グループホーム伊豆の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人や御家族の状況に応じて柔軟な対応をとっています。例えば、主治医以外の通院の付き添いや薬の調達を請け負ったり、個人的な買い物をサポートしたりと、独自のサービスを行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの蔓延により、感染症対策の一環として現在は一時的に交流を中止しているが、今後は以前同様地域のボランティアの方々による各種催し物を定期的に企画したい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院と連携を結び月2回の往診があります。また特変時には個別の往診も来て頂けます。その際、日頃から病状を把握し、ご家族との情報も交換しあいながら連携をもった関わりをしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と契約し週一回の健康観察があります。またバルーン対応や褥瘡処置など個別の対応が必要な場合、毎日訪問が可能です。24時間看護職との連絡がとれており、適切な相談、受診を受けられる体制が整っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院に関しては、往診主治医がほぼ判断し、入院後もホーム関係者の見舞いや洗濯物等の支援や病院のソーシャルワーカーとも関わりをもち、退院調整含め良好な関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	できる限り終末期や重度化に向けた支援をしていきます。早い段階からご家族、ご本人の希望を把握し、グループホームでは病院と違い積極的な治療を受けるには不向きであることなど十分に説明した上で方針を共有し支援に努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に、全体会、研修会を通して、職員が応急手当や初期対応の実践力向上に励んでいます。緊急対応マニュアルにそって緊急度の程度を判断し医療職に繋げるよう夜勤者と社員を中心に行っています。		

静岡県(グループホーム伊豆の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に、避難訓練を行い、入居者様への意識付けや昼夜の勤務者が様々な場面での避難の対応が出来る様に繰り返し行っています。地域の方々に関しては、集まりがあった時に協力体制をお願いし承諾を得ている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時や全体会等において言葉かけや対応の仕方の社員教育を行っています。また、利用者様を尊重し、尊厳する様努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話より、利用者様の思いや希望を把握し、職員同士が情報を共有し、自己決定できるよう努めています。また、ケアプラン等にも生かし、ご家族にも情報を伝えていきます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	良かれと思いつい行い介助も、ご本人が望まないこともあり、その方の望まれることを見極めてサービスを提供しています。緊急性や命に関わることでない限り規則にはめず、出来るだけ利用者様の気持ちを優先し支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容等に配慮し、服装も利用者様の希望の服を選んでいただき、イベント時にはお化粧品などを楽しんでいただいています。外出の難しい利用者様にはカタログなどのお買い物を楽しんで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みの食べ物をなるべく提供し、見た目も楽しめるように工夫していくよう努めます。また刺身の日、土用の丑の日など、季節感とイベント的な食事を毎月提供しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は毎食、確認できるよう記録物があり、その様子によって追加摂取したり、補足したりしています。個々の状況により、食材や食形態を検討し、安全で適切な状態での摂取を心掛けています。		

静岡県(グループホーム伊豆の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合った口腔ケアを実施しています。ガーゼ等で磨く場合は清潔保持にも配慮しています。口腔ケアが十分に行えない場合は、口腔ケア用の用品などを使って個別に対応しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をもとに個々の排泄パターンを把握し、できる限り不快感を感じないよう排泄支援しています。また、オムツで入所された利用者様であっても尿意等がある場合は再びトイレにて排泄できるよう支援をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃より便秘予防の為に食材、水分、運動等に配慮し、場合によっては主治医に相談もしています。個別に補助食品として牛乳、ヨーグルト等を追加して摂取しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の体調に合わせて、希望時に入浴できるように努めています。一人ずつお湯を入れ直している為、清潔な上、入浴剤の有無や好きな温度でのんびり入って頂けます。転倒や転落のない様リスクの高い方は二人で介助しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様1人1人の体調を考慮し、動と静のバランスを随時心掛けています。ゆっくりお休み頂けるよう温度管理に留意し、また日中でも体を休めるようフロアーにソファなども用意しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在、服薬中の薬の目的、副作用を明示したものを個々のファイルをし各階でスタッフがいつでも見れることができるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の体調や生活パターンに合わせて、食事の支度や片付け、洗濯物量みなど手伝って頂きお礼の言葉を毎回きちんと伝えていきます。また、歩行訓練等にも努めています。カラオケなども通信でユニットごとに配置しておりTV体操を中心に体を動かして頂ける様働きかけています。		

静岡県(グループホーム伊豆の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの蔓延につき、不要不急の外出以外は基本的に外出支援は出来ていません。地域のボランティアさんにも施設への出入りはご遠慮して頂いている状況です。。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の理解度の程度により、個々の手持ちのお金を保持されており、満足感や達成感を体験しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者は、理解の程度により居室に電話を引いていた事もあります。手紙もご家族様やご利用者様の要望により手紙のやり取りも支援して参ります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間ではどなたにとっても色、臭い光等が不快なく過ごせるよう空間作りに努めています。また共有空間はエアコン以外に、床暖房や、天井に除菌機能の空気清浄機をフロアごと3つずつ設置し快適に過ごせるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの中に応接セットのソファを用意し、ゆったりと腰かけて他入居者の方々や職員と会話したりくつろげるよう工夫しています。また家具も家庭にいる雰囲気大切にしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具はすべて個人が使用していたものを持参され時計やカレンダー布団、洋服など人それぞれ持ち込まれています。また電話や仏壇を持ち込まれている利用者もいます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は、全てバリアフリーとなっており、共有スペースは空間も広く床暖房も設置されており、危険や事故のないよう配慮されています。また広々としている為、1人ひとりの意向にそったしたいことがゆっくり行える環境です。		